

Fellowship ID : BR240203

2025 年 1 月 14 日

YYYY/MM/DD

独立行政法人日本学術振興会理事長 殿

To: President, Japan Society for the Promotion of Science

研究活動報告書 Research Report

1. 受入研究者/ Host researcher

受入研究機関・部局・職
Name of Host Institution, Department and Title
二松学舎大学・文学部・教授

受入研究者氏名
Host Researcher's Name
町 泉寿郎

2. 外国人招へい研究者/ Fellow

所属研究機関・部局・職
Name of Institution, Department and Title
University Bordeaux Montaigne, Department of Japanese Studies,
Professor

外国人招へい研究者氏名
Fellow's Name
Eddy Dufourmont

3. 採用期間/ Fellowship Period

2024 年 11 月 13 日 ～ 2024 年 12 月 12 日 30 日 (Days)
か月 (Months)

4. 研究課題/ Research Theme

中江兆民を核とした 19 世紀の日仏における思想交流に関する研究

5. 研究活動報告/ Research Report

(1) 研究活動の概要・成果/ Summary of Research Results

日本滞在中の活動を紹介する前に、一言を指摘しておきたい。一ヶ月の予定だった滞在は実際には三週間になった。ドバイで生活している妻の体調が急に悪化して内出血との診査を受けたため、私たちの子ども二人の世話をする人がいないので、一時的に私がドバイに戻るよりほかなかったからである。二松学舎大学と日本学術振興会の方と相談したうえで、一週間日本を不在にし、その期間に相当する滞在費を返納した。

1 史料と研究の入手

中江兆民の思想的人脈に属している人物に関して、当初の予定通り多くの史料を入手できた。今回の滞在は、立教大学博士課程の大塚淳氏と共に高知の自由民権運動記念館図書館を訪問するところから始まった。同館の「松永文庫」とその他の文庫で、仏学塾とその学生、司法省の官僚岸本辰雄に関する未発表のテキストや新聞を複写し、存在を知らなかった雑誌「兆民研究」や、他の学術的な単著も購入した。ドバイにいた一週間も、できるだけ高知で入手した史料を読んだり、12月7日の研究会の準備をしたりして過ごした。日本に戻ってからの二週間は、古本屋で史料や著作を注文した。そのリストは以下の通り。

(注) 採用期間終了後 3 ヶ月以内に提出

※ (Note) Submit the form within 3 months after the expiration of fellowship.

※ 様式 1 に記載された情報を基に確認しますので、部局名等の名称含め、内容に誤りが無いか必ずご確認ください。

「自由新聞」を読む—自由党にとっての自由民権運動
自由は人の天性なり：「東洋自由新聞」と明治民権の士たち < 東洋自由新聞 >
共存同衆の進展と影響—代表的都市民権派言論結社の航跡
日本歴史 第 378 号 中江兆民の仏学塾と「仙台義会雑誌」(藤野雅己)
修身原論 中学校・師範学校用教科書
佛國革命史
東洋のオルトラン宮城浩蔵論文選集
日本近代法学の先達岸本辰雄論文選集
土佐自由民権運動史
自由民権の民衆像 秩父困民党の農民たち
小島龍太郎おぼえがき

なお、国会図書館と法政大学の大原社会問題研究所の「江村栄一旧蔵自由民権関連資料」という文庫で、明治時代の新聞雑誌、また画像化されていない史料を閲覧し、大量の複写をした。二年前の JSPS 奨学金による滞在で手にいれられなかった史料を購入できたことで、大いに満足した。ただし、1870年代の司法省と元老院については十分検討できず、また明治法律学校設立者の官僚と民権派の官僚との関係をまだ証明できないことで、今後さらに調べてみたいと思う。

2 学術的人脈の作成と発展

今回の滞中で、初めて直接に知り合い、これから一緒に研究する予定の研究者として、田中豊准教授(関西学院大学)、柳愛林准教授(九州大学)真辺美佐准教授(立正大学)、上野広(東京大学)、佐藤空(慶應義塾大学)らが挙げられる。そのうちの何人かが2024年12月7日の研究会に参加した。

(2) 主な研究発表(雑誌論文、学会、集会、知的財産権等) / Main Research Publications

町氏と二松学舎大学の協力によって、2024年12月7日に、「ヨーロッパの政治思想と自由民権運動期の日本、漢学」という研究会を主催することができた。その研究会には、町氏を含めた二松学舎の研究者三人をはじめ、今回知り合うようになった田中豊氏、柳愛林氏ら若手研究者と、思想史の分野で著名な松田宏一郎氏らが研究報告し、思想史で広く知られている専門家たちも多数出席して活発な議論が交わされ、大成功裡に終了した。来年度中に共著の論文集を出版する予定である。

(3) その他/ Remarks

これからの予定

研究対象にした人物のうち、田中耕造と河津祐之については十分な史料と先行研究を集めたので、各人物について論文を執筆し、日本の学会誌等に投稿したい。更には、以上指摘した必要のある研究ケースばかりでなく、啓蒙主義の国際的転移の問題と、明治時代におけるヨーロッパ政治思想の翻訳と中国思想の関係について、日本とアジア・ヨーロッパ・アメリカの研究者と一緒に研究する希望をもっており、共同研究計画を目指してそれに相応しい日本学術振興会のプログラムに申請するつもりである。

(注) 採用期間終了後3ヶ月以内に提出

※ (Note) Submit the form within 3 months after the expiration of fellowship.

※ 様式1に記載された情報を基に確認しますので、部局名等の名称含め、内容に誤りが無いか必ずご確認ください。

1 思想史の課題としての翻訳

- 先行研究の宮村春雄先生が、兆民の著作と見なされている『理学鉤玄』はフランス語の辞書や単書の翻訳で作成されたのを証明した。また、他の研究は兆民の『民約訳解』がルソーの『社会契約論』とどれほど忠実であったのは論争の課題。
- フランスで所謂「文化的転移」において翻訳が重要されている。
- 以前、私は 兆民全集第17巻にある「道德論」がCharles Renouvier著作の翻訳であったのを証明した。
- =>兆民は「よき訳者」というより、翻訳による思想家。

